

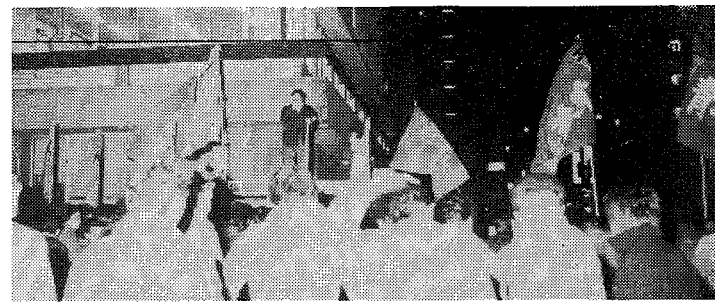
国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七



千葉運転区での総決起集会には国労千葉地本青年部代表からの連帯のあいさつがなされ、連帯共闘の強化を確認した。

# 「60・3」粉碎で青年部総決起集会 国労青年部との共闘体制前進



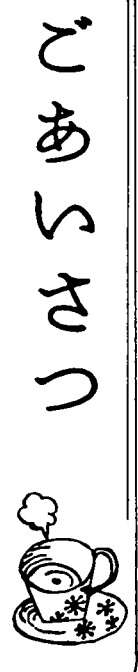
千鉄局前で開催された国労青年部総決起集会には動労千葉新藤副青年部長が参加し、連帯のあいさつを行った。

12月24日、動労千葉青年部は、千葉運転区講習室において『60・3』ダイ改粉碎、10万人首切り阻止総決起集会を行った。青年部は、11月29日蘇我機関支区で「60・3」粉碎の第一弾の闘いに続いて、一三〇名の結集で大成功をかちとつた。青年部は、「60・3」ダイ改粉碎へ最先頭で闘いぬく決意である。

来春「3・24」総力決起を頂点に、三里塚―国鉄決戦の勝利へつき進もう  
集会は、杉本常任の司会ではじまり、本部青年部の主催者あいさつ、連帯のあいさつ、中野委員長による講演と進んでいった。  
連帯のあいさつとして最初に三里塚反対同盟から青行隊の伊藤信晴氏が来られ、「9・16東峰十字路闘争裁判」における反対同盟三氏に対する反動的な論告求刑を怒りをこめて弾劾し、正念場に突入した三里塚闘争勝利のために全ての労働者がたちあがるように、動労千葉が全力で闘うことを訴えられた。  
またこの日は、国労千葉地本青年部が局前で総決起集会を開催しており、お互いに代表を派遣しあい共に闘う立場で集会をかちとつた。国労千葉地本青年部の代表は、「われわれは今、岸壁の一番はしにたたさされている。一人の首切りも許さずに闘いぬく。共に闘おう」と決意表明した。国労千葉青年部の集会には新藤副青年部長が動労千葉青年部を代表して連帯のあいさつを行った。

「60・3」粉碎へ！ 青年部は先頭に！  
――中野委員長が激――  
寮自治会を代表して、永島君より、「寮費値上げに對して不払いでたたかいぬく」との決意と闘争報告がなされた。  
つづいて、中野委員長が「一年間の総括と八五年のたたかい」と題する講演を受けていった。

中野委員長は、「『60・3』粉碎に向けて青年部の積極的たたかいを期待する。動労千葉青年部は、輝かしい闘いの伝統をもっている。職場のたたかいと結合して中曾根を打倒するたたかいをやることだ。中曾根を打倒するたたかいはなくして状況はよくなることはない。動労『本部』革マルは、そこに恐怖したからこそ、今日、あのようなぶざまな屈服と裏切りで走ったのだ。俺たちは、敵に頭を下げないで、あくまでも前を向いて自力で、実力でたたかいていぬかなければならない。われわれは、『3・25』『10・10』と五割動員を2回もやりぬいた。全国の国鉄の仲間も、三里塚に結集し動労千葉とともにやろうという部分が急速に増えている。当面、『60・3』ダイ改粉碎へ全力で決起しよう。そし



## 「日刊」編集委員会

闘いにつぐ闘いの八四年も、あと三日を残すばかりとなりました。直面・山積する課題の大きさに激しさに必死でぶつかり対決してきたこの一年間は、あっといふ間の短かさのように感じられます。今号をもって、八四年の『日刊』発行の最終号といたします。「60・3」「三本柱」「検修大合理化」等の国鉄攻撃、また、成田用水強行―自主耕作地破壊―表土はぎとりと鉄条網張りめぐらしを軸とした三里塚現地への攻撃激化、を見るまでもなく、情勢は日まじに緊迫の度を増しています。年末に企画した「84年を闘いぬいて」の中で各支部の代表の誰もが実感と確信をこめて述べているように、この八四年は転向・屈服・裏切り集団をふみつぶして、「非妥協・不屈―原則死守・実力闘争」をもってきりひらいてきたわれわれ三里塚を闘う労働運動の勝利の地平にしっかりと足場をふみ固め、千三百組員と家族の団結を更に強化し、決戦勝利の八五年へと力強くつき進んでいこうではありませんか。『日刊』編集委員会もより一層の研摩努力を傾注して八五年の闘いの道を皆さんと共に前進していきたいと思えます。寒さも一段と厳しくなる折から、組合員各位ならびに御家族の皆さん、そして全国の読者の皆さんの御健康と御発展、あわせて八五年の新年を迎えられんことを祈念して、しめくくりの御あいさつといたします。  
一九八四年十二月二八日